

平成21年9月期 第1四半期決算短信

平成21年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ドワンゴ
 コード番号 3715 URL <http://info.dwango.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員業務本部長
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月12日

(氏名) 小林 宏
 (氏名) 松本 康一郎

TEL 03-3664-5477

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年9月期第1四半期の連結業績 (平成20年10月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年9月期第1四半期	6,960	—	496	—	484	—	286	—
20年9月期第1四半期	5,981	3.6	△163	—	△159	—	△245	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年9月期第1四半期	1,463.04	1,462.55
20年9月期第1四半期	△1,245.78	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年9月期第1四半期	21,047	16,514	75.0	83,050.02
20年9月期	22,615	17,628	75.0	85,771.17

(参考) 自己資本 21年9月期第1四半期 15,782百万円 20年9月期 16,971百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
(基準日)	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年9月期	—	—	—	2,000.00	2,000.00
21年9月期	—	—	—	—	—
21年9月期 (予想)	—	—	—	2,000.00	2,000.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年9月期の連結業績予想 (平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	13,800	10.7	△50	—	△70	—	△150	—	△758.10
通期	28,900	15.7	420	265.2	410	283.2	280	—	1,415.10

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、3ページ「定性的情報・財務諸表等 4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更 (四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、3ページ「定性的情報・財務諸表等 4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	21年9月期第1四半期 198,001株	20年9月期 197,866株
② 期末自己株式数	21年9月期第1四半期 7,970株	20年9月期 1株
③ 期中平均株式数 (四半期連結累計期間)	21年9月期第1四半期 195,561株	20年9月期第1四半期 197,376株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。

予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全般的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えてください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期（平成20年10月1日～平成20年12月31日）における我が国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界金融市場の混乱から、株価の下落や急激な円高の進行が発生いたしました。欧米はもとより世界的な景気停滞も深刻化し、企業収益、個人消費の低迷や、雇用不安の表面化など、取り巻く環境は厳しさを増しております。

当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）を取り巻く環境といたしましては、携帯電話契約数における第3世代、第3.5世代端末の占める割合が平成19年12月末の83.3%から平成20年12月末には91.1%（出所：電気通信事業者協会）まで上昇しております。一方、PCにつきましても高速データ通信を可能とするブロードバンド回線の契約数は2,934万契約（総務省調べ）となっております。このようなインフラ整備の拡大に伴う携帯電話・PCのブロードバンド化により、今までにはない様々な新しいサービスが展開されていくものと考えられます。

このような環境のもと、当社グループではモバイル事業におきましては、日々変化するユーザーニーズにいち早く対応し、多彩なラインアップの充実やサービス向上を継続してまいりました。

ゲーム事業におきましては、引き続き、あらゆるプラットフォームに自社ソフトを提供していくとともに、海外ソフトの権利取得による国内販売などを実施いたしました。

ポータル事業におきましては、「ニコニコ動画」が引き続き順調に登録会員数を伸ばしており、平成20年12月末において、登録会員数1,072万人、また、様々な特典を受けられる「ニコニコプレミアム会員」の会員数が24万9千人、携帯端末でも楽しめる「ニコニコ動画モバイル」の会員数が288万9千人となっております。

以上の結果、当第1四半期連結業績は、売上高69億60百万円（前年同期比16.4%増）、営業利益4億96百万円（前年同期は1億63百万円の営業損失）、経常利益4億84百万円（前年同期は1億59百万円の経常損失）、四半期純利益は2億86百万円（前年同期は2億45百万円の損失）となりました。

事業セグメント別の業績は次のとおりであります。

モバイル事業におきましては、主力サイトである着うた[®]・着うたフル[®]サイトにおいて、積極的な人気楽曲の権利獲得やタイアップ企画などの施策により、会員数は堅調な推移を見せており、当第1四半期末の有料ユニークユーザー数は383万4千人（前年同期比14万3千人増）、ARPUは380円（同3円増）となりました。

以上の結果、モバイル事業の売上高は42億84百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益は11億55百万円（前年同比55.9%増）となりました。

ゲーム事業におきましては、平成20年10月に発売しました人気シリーズである「侍道3」や「喧嘩番長3」などが売上に貢献しております。

以上の結果、ゲーム事業の売上高は17億21百万円（前年同期比57.4%増）、営業利益は5億20百万円（前年同期は39百万円の営業損失）となりました。

ポータル事業におきましては、平成20年12月に「ニコニコ動画(ββ)」にバージョンアップをし、さらなるサービス強化に努めてまいりました。当事業における2つの重点戦略である一般化・収益化につきましては、まず一般化において、優良なコンテンツホルダーとのリレーション作りを積極的に行い、性別や年齢に拘らない様々なユーザーの趣味・嗜好に対応するコンテンツの充実を目的に「ニコニコチャンネル」の開設を積極的に行っており、平成20年12月末現在93チャンネルを開設しております。一方、収益化につきましては、「ニコニコプレミアム会員」からの有料サービス収入、メディアとしての認知度向上やユーザー間におけるコミュニティ形成などを通じた広告収入やEC収入に加え、平成20年10月より新たな収益手段として、ポイントシステムを利用したサービスを開始しております。いずれも着実に売上貢献し始めてはいるものの、登録会員数の増加に伴う設備投資、回線費用の増加及び本格的な収益化に向けての先行投資等により、未だ収益の貢献には至っておりません。

以上の結果、ポータル事業の売上高は6億36百万円（前年同期比77.9%増）、営業損失は4億75百万円（前年同期は2億48百万円の営業損失）となりました。

その他事業におきましては、アニメーション番組への出資による利益分配金や音楽出版などのアニメ関連事業売上や、ゲームソフト攻略本によるロイヤリティ収入等が貢献しております。

以上の結果、その他事業の売上高は3億65百万円（前年同期比27.0%減）、営業損失は16百万円（前年同期は3百万円の営業利益）となりました。

※当文章中の前年同四半期連結会計期間と比較した指標、金額は「参考値」として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の資産につきましては、流動資産のその他に含まれている預け金が増加したものの、現金及び預金、有価証券が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ15億68百万円の減少となりました。

負債につきましては、支払手形及び買掛金が増加したものの、短期借入金及び引当金が減少したこと等により、前連結会計年度に比べ4億54百万円の減少となりました。

純資産につきましては、利益剰余金は増加したものの自己株式の取得や、資本剰余金からの配当等により11億13百万

円の減少となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により増加したものの、財務活動及び投資活動において減少したこと等により38億29百万円の減少となりました。

（営業活動によるキャッシュフロー）

営業活動の結果得られた資金は3億50百万円（前年同期は1億15百万円の支出）となりました。これは主に売上債権の増加で4億30百万円、賞与引当金の減少で1億56百万円支出したものの、税金等調整前四半期純利益で4億41百万円、減価償却費で2億51百万円が収入要因となったためであります。

（投資活動によるキャッシュフロー）

投資活動の結果使用した資金は6億1百万円（前年同期は4億47百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得により2億82百万円、無形固定資産の取得により2億81百万円支出したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュフロー）

財務活動の結果使用した資金は35億75百万円（前年同期は1億75百万円の支出）となりました。これは主に預け金の増加により17億48百万円、自己株式の取得により10億51百万円支出したこと等によるものであります。

※当文章中の前年同四半期連結会計期間と比較した指標、金額は「参考値」として記載しております。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年9月期の業績予想につきましては、本資料の公表時点では、中間期、通期ともに平成20年11月13日付「平成20年9月期 決算短信」において発表いたしました連結業績予想に変更ありません。

※業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。

予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えてください。

4. その他

（1）期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

（2）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 簡便な会計処理

①棚卸資産の評価方法

棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

また、棚卸資産の簿価切り下げに関しては収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切り下げを行う方法によっております。

②固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

③繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

2. 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

（3）四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1. 「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 平成19年3月14日）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

なお、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日 内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号のただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を早期に適用しております。

2. 「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）を適用し、評価基準については、原価法から原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）に変更しております。

当該変更に伴う損益に与える影響はありません。

3. 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号平成18年5月17日）を適用しております。

当該変更に伴う損益に与える影響はありません。

【参考資料】

1. 当第1四半期連結業績

〔売上構成〕

(金額：百万円)

	前第1四半期 (売上比)	当第1四半期 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	当第1四半期の主な変動要因
売上高	5,981	6,960	24,978	
モバイル事業	4,043 (67.6%)	4,284 (61.6%)	16,801 (67.3%)	ユニークユーザー数及びARPUの増加による。
音楽系	3,657 (61.1%)	3,941 (56.6%)	15,310 (61.3%)	
ゲーム・その他	386 (6.5%)	342 (4.9%)	1,490 (6.0%)	
ゲーム事業	1,093 (18.3%)	1,721 (24.7%)	4,953 (19.8%)	人気シリーズである「侍道3」や「喧嘩番長3」の販売好調。
ポータル事業	357 (6.0%)	636 (9.1%)	1,810 (7.2%)	プレミアム会員数及び広告売上増加による。
その他事業	500 (8.4%)	365 (5.3%)	1,553 (6.1%)	ゲーム攻略本の売上減少による。
消去又は全社	△14 (△0.2%)	△47 (△0.7%)	△120 (△0.5%)	

〔売上原価主要科目〕

(金額：百万円)

	前第1四半期 (売上比)	当第1四半期 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	当第1四半期の主な変動要因
売上原価	3,480 (58.2%)	3,721 (53.5%)	14,232 (57.0%)	
人件費	713 (11.9%)	947 (13.6%)	3,452 (13.8%)	オンラインゲーム開発業務の人員数増加による。
支払手数料	390 (6.5%)	386 (5.6%)	1,716 (6.9%)	
著作権等使用料	962 (16.1%)	1,164 (16.7%)	4,264 (17.1%)	着うた®・着うたフル®の利用増加による。
外注費	866 (14.5%)	903 (13.0%)	2,669 (10.7%)	
通信費	309 (5.2%)	369 (5.3%)	1,482 (5.9%)	ニコニコ動画回線費増加による。
その他	529 (8.9%)	380 (5.5%)	2,054 (8.2%)	
(他勘定振替)	△291 (△4.9%)	△430 (△6.2%)	△1,407 (△5.6%)	

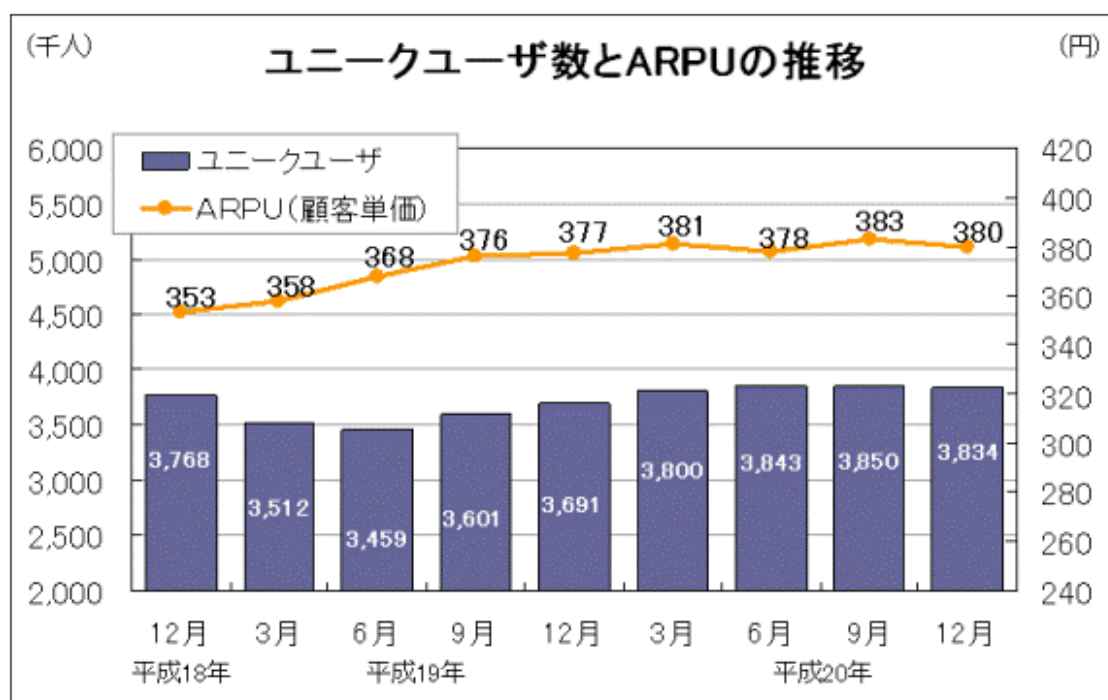
〔販売費及び一般管理費主要科目〕

(金額：百万円)

	前第1四半期 (売上比)	当第1四半期 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	当第1四半期の主な変動要因
販売費及び一般管理費	2,664 (44.5%)	2,742 (39.4%)	10,630 (42.6%)	
広告宣伝費	739 (12.4%)	962 (13.8%)	2,970 (11.9%)	ゲームソフトの発売に伴う販売促進や、ニコニコ大会議(イベント)の開催による。
人件費	364 (6.1%)	443 (6.4%)	1,543 (6.2%)	
支払手数料	722 (12.1%)	678 (9.7%)	2,774 (11.1%)	
研究開発費	621 (10.4%)	436 (6.3%)	2,396 (9.6%)	ゲーム開発プロジェクトの絞り込みによる。
その他	215 (3.6%)	222 (3.2%)	946 (3.8%)	

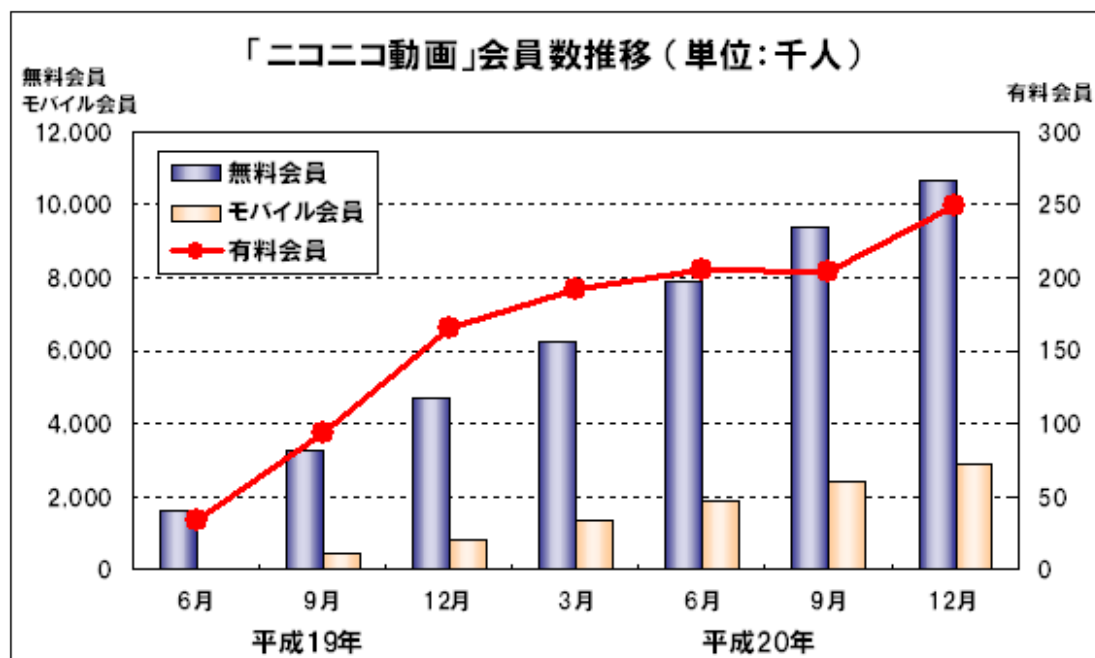
※当第1四半期末の従業員数(連結)は、726名となり、前第1四半期末より148名、前連結会計年度末より17名増加しております。

2. ユーザ動向



- (注) 1. ARPU (Average Revenue Per User) とは、ユーザー1人当りの月間売上高のこと。同一ユーザーの複数サイトへの加入状況を把握することで算出が可能となっております。顧客単価と同義。
2. 有料ユニークユーザー数とは、ユーザーIDに基づきカウントする有料ユーザー数。延べ数ではなく、同一ユーザーが複数サイトへ加入している場合にも1人としてカウントします。

「ニコニコ動画」会員数推移



5. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,848,960	7,215,802
受取手形及び売掛金	5,419,705	4,989,165
有価証券	2,996,231	4,458,903
たな卸資産	200,512	195,944
その他	2,387,991	715,538
流動資産合計	15,853,401	17,575,354
固定資産		
有形固定資産	1,487,692	1,470,943
無形固定資産		
その他	992,604	774,132
無形固定資産合計	992,604	774,132
投資その他の資産		
投資有価証券	2,135,660	2,145,414
その他	577,676	649,576
投資その他の資産合計	2,713,337	2,794,990
固定資産合計	5,193,634	5,040,067
資産合計	21,047,035	22,615,422
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,653,013	1,510,387
短期借入金	500,000	900,000
未払法人税等	42,273	152,524
引当金	199,110	370,680
その他	2,128,757	2,051,505
流動負債合計	4,523,154	4,985,097
固定負債		
その他	9,247	2,284
固定負債合計	9,247	2,284
負債合計	4,532,402	4,987,382
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,072,922	10,070,222
資本剰余金	9,777,276	10,170,308
利益剰余金	△2,977,654	△3,263,768
自己株式	△1,048,663	—
株主資本合計	15,823,881	16,976,763
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△41,154	△6,170
為替換算調整勘定	△648	605
評価・換算差額等合計	△41,803	△5,565
少数株主持分	732,554	656,841
純資産合計	16,514,633	17,628,039
負債純資産合計	21,047,035	22,615,422

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	6,960,510
売上原価	3,721,211
売上総利益	3,239,299
販売費及び一般管理費	2,742,836
営業利益	496,463
営業外収益	
受取利息	9,507
還付消費税等	3,843
その他	2,206
営業外収益合計	15,557
営業外費用	
支払利息	4,016
持分法による投資損失	9,566
投資事業組合運用損	3,205
その他	10,521
営業外費用合計	27,310
経常利益	484,710
特別損失	
固定資産除却損	7,666
減損損失	8,418
投資有価証券評価損	26,819
特別損失合計	42,905
税金等調整前四半期純利益	441,804
法人税、住民税及び事業税	3,871
法人税等調整額	91,826
法人税等合計	95,698
少数株主利益	59,992
四半期純利益	286,113

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	441,804
減価償却費	251,736
減損損失	8,418
のれん償却額	8,455
固定資産除却損	7,666
投資有価証券評価損益 (△は益)	26,819
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△156,938
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△14,631
受取利息及び受取配当金	△9,507
支払利息	4,016
持分法による投資損益 (△は益)	9,566
投資事業組合運用損益 (△は益)	3,205
売上債権の増減額 (△は増加)	△430,539
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,568
その他の資産の増減額 (△は増加)	29,278
仕入債務の増減額 (△は減少)	142,625
未払金の増減額 (△は減少)	△23,189
前受金の増減額 (△は減少)	84,398
その他の負債の増減額 (△は減少)	69,369
その他	△4,879
小計	443,106
利息及び配当金の受取額	12,670
利息の支払額	△3,265
法人税等の還付額	5,336
法人税等の支払額	△107,232
営業活動によるキャッシュ・フロー	350,615
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△282,630
無形固定資産の取得による支出	△281,689
投資有価証券の取得による支出	△77,500
投資有価証券の償還による収入	20,000
貸付金の回収による収入	20,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△601,820
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の返済による支出	△400,000
預け金の増減額 (△は増加)	△1,748,167
新株予約権の行使による株式の発行による収入	5,250
少数株主からの払込みによる収入	15,750
自己株式の取得による支出	△1,051,832
配当金の支払額	△396,732
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,575,732
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,577
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,829,514
現金及び現金同等物の期首残高	11,674,706
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,845,192

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第1四半期連結累計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）

(単位：千円)

	モバイル 事業	ゲーム事業	ポータル 事業	その他事業	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	4,284,298	1,721,067	628,636	326,507	6,960,510	—	6,960,510
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	7,950	39,158	47,108	(47,108)	—
計	4,284,298	1,721,067	636,586	365,666	7,007,619	(47,108)	6,960,510
営業利益又は営業損失 (△)	1,155,002	520,268	△475,600	△16,409	1,183,261	(686,798)	496,463

(注) 1. 事業区分の方法

当社の事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分に属する主要な製品・サービス

事業区分	主要製品・サービス
モバイル事業	モバイルコンテンツ配信等
ゲーム事業	ゲームソフト開発、販売等
ポータル事業	携帯電話並びにPCのメール及びWeb等を利用した各種情報・付帯 広告の配信、動画投稿共有サイトの運営等
その他事業	ネットワークを利用した製品・商品販売、書籍等の企画・編集、 ソフトウェア受託・サポート等

〔所在地別セグメント情報〕

当第1四半期連結累計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第1四半期連結累計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）

海外売上高の合計が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結累計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

(単位：千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	10,070,222	10,170,308	△3,263,768	—	16,976,763
当第1四半期連結会計期間末までの 変動額					
新株の発行	2,700	2,700			5,400
剰余金の配当		△395,732			△395,732
四半期純利益			286,113		286,113
自己株式の取得 ※				△1,048,663	△1,048,663
当第1四半期連結会計期間末までの 変動額合計	2,700	△393,032	286,113	△1,048,663	△1,152,881
当第1四半期連結会計期間末残高	10,072,922	9,777,276	△2,977,654	△1,048,663	15,823,881

※平成20年11月、12月に市場から1,048,663千円を取得しております。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前年同四半期 (平成20年9月期 第1四半期)
	金額(千円)
I 売上高	5,981,379
II 売上原価	3,480,316
売上総利益	2,501,063
III 販売費及び一般管理費	2,664,336
営業損失(△)	△163,273
IV 営業外収益	
1. 受取利息	14,414
2. その他	989
営業外収益合計	15,401
V 営業外費用	
1. 支払利息	3,714
2. 持分法による投資損失	7,450
3. その他	499
営業外費用合計	11,664
経常損失(△)	△159,536
VI 特別利益	
持分変動利益	1,908
特別利益合計	1,908
VII 特別損失	
1. 固定資産除却損	15,858
2. その他	8,941
特別損失合計	24,800
税金等調整前四半期純損失(△)	△182,427
法人税、住民税及び事業税	70,854
法人税等調整額	28,620
少数株主損失(△)	△36,015
四半期純損失(△)	△245,887

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前年同四半期 (平成20年9月期 第1四半期)
区分	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△182,427
減価償却費	242,853
のれん償却額	4,864
賞与引当金増減額	△124,151
返品調整引当金増減額	18,502
受取利息及び受取配当金	△14,414
支払利息	3,714
株式交付費	278
持分法による投資損失	7,450
持分変動利益	△1,908
固定資産除却損	15,858
売上債権の増減額	360,975
たな卸資産の増加額	△38,371
前払費用の増加額	△82,985
差入敷金保証金の増減額	4,757
その他の資産の増減額	△72,669
仕入債務の減少額	△345,868
未払金の増減額	△12,143
前受金の増減額	60,187
その他の負債の増加額	122,463
その他	△11,099
小計	△44,133
利息及び配当金の受取額	17,299
利息の支払額	△3,471
法人税等の支払額	△84,901
営業活動によるキャッシュ・フロー	△115,206

	前年同四半期 (平成20年9月期 第1四半期)
区分	金額(千円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	59,600
有形固定資産の取得による支出	△337,383
無形固定資産の取得による支出	△152,054
貸付による支出	△20,000
貸付金の回収による収入	2,533
投資活動によるキャッシュ・フロー	△447,304
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金による収入	200,000
長期借入金の返済による支出	△1,559
新株発行による収入	11,481
少数株主からの払込による収入	10,000
配当金の支払額	△395,403
財務活動によるキャッシュ・フロー	△175,481
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	540
V 現金及び現金同等物の増減額	△737,452
VI 現金及び現金同等物の期首残高	12,076,886
VII 現金及び現金同等物の期末残高	11,339,434

(3) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前年同四半期 (平成20年9月期第1四半期)

(単位:千円)

	モバイル 事業	ゲーム事業	ポータル 事業	その他事業	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	4,043,692	1,093,170	357,258	487,258	5,981,379	—	5,981,379
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	600	13,511	14,111	(14,111)	—
計	4,043,692	1,093,170	357,858	500,769	5,995,490	(14,111)	5,981,379
営業費用	3,302,877	1,132,282	606,128	497,349	5,538,638	606,014	6,144,652
営業利益又は営業損失 (△)	740,814	△39,112	△248,269	3,419	456,851	(620,125)	△163,273

(注) 1. 事業区分の方法

当社の事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分に属する主要な製品・サービス

事業区分	主要製品・サービス
モバイル事業	モバイルコンテンツ配信等
ゲーム事業	ゲームソフト開発、販売等
ポータル事業	携帯電話並びにPCのメール及びWeb等を利用した各種情報・付帯広告の配信、動画投稿共有サイトの運営等
その他事業	ネットワークを利用した製品・商品販売、書籍等の企画・編集、ソフトウェア受託・サポート等

3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、627,822千円であり、その主なものは、当社の業務本部等の管理部門に係る費用であります。

6. その他の情報